

『泉パークタウンにおけるスマートシティ実現にむけた先進的取組推進会』

提案団体名： 三菱地所(株)、パナソニック(株)、パナソニック ホームズ(株)、関電不動産開発(株)  
東北電力(株)

○提案内容

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等  
※スマートシティの実現に資する技術については、別紙2の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください

技術の概要・実績等	技術の分野
<p>・スマートシティの実現には、導入した技術を実行するためのタウンマネジメント機能が必要です。</p> <p>・スマートシティの各テーマ(“エネルギー”、“交通・物流”、“健康”、“安心・安全”)における課題解決技術として(4)データプラットフォームと、(5)データ活用をもとに、(7)その他(タウンマネジメント機能)を核にしています。特にエネルギーおよび環境については、(2)分析予測技術や、(1)通信ネットワーク技術・センシング技術を、交通・モビリティ分野については、(6)の応用技術を活用していきます。</p> <p>・“泉パークタウン”は、1974年のまちびらき以降40年以上にわたり、「人と自然の調和した快適な住環境」と「住む」「働く」「憩う」「学ぶ・集う・楽しむ」といった多彩な生活機能を備えた複合型の都市構築をテーマとしてまちづくりが推進されており、総開発面積約1,074ha(約325万坪)のタウン内には、住宅をはじめ商業施設、事業所、スポーツ、リクリエーション施設、緑あふれる公園、緑地などがバランス良く配置され、10,214世帯25,808人(2018年10月時点)が暮らす郊外型団地です。</p> <p>・“泉パークタウン”では、まちびらき当初より、お住まいの皆様とともにまちづくりを進める精神「シビルライセンス」(街全体を財産として共有し、住民自らがまちづくりに参加して一緒に街を成長させていく理念)を掲げており、(株)泉パークタウンサービス(まちびらき翌年に設立された泉パークタウンの総合運営管理等を目的としたタウンマネジメント会社)とともに、コミュニティ活動を通して街の価値を維持・向上し、成熟を深めています。</p> <p>・2018年11月に工事着手した(仮称)泉パークタウン第六住区東工区開発計画(約48ha)は、“泉パークタウン”の住宅地開発事業としては初となる共同開発方式を採用し、「低炭素社会・循環型社会の形成に寄与するソリューションやサービスを導入することで、新しい暮らしを提案すること」を基本方針として設定しています。最先端のテクノロジーが暮らしの中で息づくことを目指し、この街から、“エネルギー”、“交通・物流”、“健康”、“安心・安全”といった社会の課題に対する具体的な解決モデルを提案します。</p> <p>・(仮称)泉パークタウン第六住区東工区開発計画では、2022年のまちびらきに向け様々な企業・団体との共同研究も積極的に展開し、多様な業種の幅広い視点からの新しい技術・発想を取り入れていきます。さらには本事業を通じ、既存の第1住区から第5住区も含め、泉パークタウンが持続可能なまちづくりモデルとして時代の最先端であり続けることを目指していきます。</p>	<p>(7)</p> <p>※(1)・(2)・(4)・(5)・(6)が中心</p>

(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ  
※課題については、別紙2の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>・住民主導による新しいタウンマネジメント組織による、自立的なまちづくりの実現 →高齢化が進み人口減少局面に入った日本においては、日常生活に支障を感じる方の増加や地域内の見守り活動の必要性増加、住民による交流の機会や地域活動の減少、子育て・教育の充実を望む世帯の増加、空き家増加といった社会課題を抱えており、その多くが郊外型住宅団地が抱える課題となっている。 →一方で生産年齢人口割合の減少により社会保障の維持が難しくなると言われている中で、住民主導による新しいタウンマネジメント組織によるまちづくりを実現し、その地域が抱える課題の解決策をその地域が自立的に考え、自治体と協力して解決し、結果的に特徴あるコミュニティが各所で形成されるような仕組みが求められる。</p>	<p>(カ)</p>
<p>・コンパクトシティ+ネットワークの実現 →地域の交通ハブ及び医療・福祉・商業等の生活機能と郊外型住宅団地を繋ぎ、またラストワンマイルの交通手段と合わせることで、高齢者が安心して暮らせ、また共働き世帯にとって便利で安全な交通機能を充実させるとともに、公共交通機関が抱える労働力不足の課題の解決にも臨む。 →一人に加えてモノも運ぶことを想定し、効率的で効果的な物流システムを構築する。</p>	<p>(ア) (コ) (サ)</p>
<p>【課題】 ・交通弱者を支援するまちの交通の強結節 ・高齢者に優しいスマートな交通システム ・共働き/高齢者増加を助けるラストワンマイルの配送</p>	<p>(ア)</p>
<p>【課題】 ・住人が便利に荷物を受け取れるような物流環境の整備 ・物流の効率化、環境負荷低減</p>	<p>(コ)</p>

<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンパクトシティ化に向けた生活サービスデータの総合化</li> <li>コンパクトシティ化を維持する仕組みづくり</li> </ul>	(サ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>郊外型住宅団地の防災力・防犯力強化</li> </ul> <p>→昨今のBCP(Business Continuity Plan)機能の整備と同様に、郊外型住宅団地において被災時のライフライン維持及び防災情報や食料等の確保を地域として確保するべく、行政と連携した機能強化や地域連携による運用強化が求められる。</p> <p>→センサー等を利用した防犯機能による安心安全の整備が求められる。</p>	(ウ) (ケ)
<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時等における非常時の住民対応力の強化</li> <li>災害時、非常時でも生活できるインフラの整備</li> </ul>	(ウ)
<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>景観にも配慮された、交流空間の安全性向上</li> <li>生活サービスが集約された情報機能の自宅利用</li> <li>まちの防犯機能の充実で暮らしの安心を確保</li> </ul>	(ケ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>環境及びエネルギーとの関わり方</li> </ul> <p>→環境にやさしい暮らしを後押しする自然エネルギーのさらなる利用に資するVPP(Virtual Power Plant)の取り組みや、IoT技術による無理のない省エネの暮らしを実現するなど、スマートで環境にやさしい暮らしを促進する。</p>	(イ) (ク)
<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーの経済性向上</li> <li>低炭素で災害に強いエネルギー源の確立</li> <li>防災減災を意識した、快適で安全なエネルギーインフラ</li> <li>常時/非常時の最適施設活用</li> <li>ZEHからZETへ、よりスマートな供給</li> </ul>	(イ)
<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的に安全で快適な街の環境の維持</li> </ul>	(ク)
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康寿命の延命や生産者としての高齢者活用、および共働き世代に求められる時間の有効活用の一環として健康増進や医療サービスのスマート化が求められる。</li> </ul>	(カ)
<p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>住まいの健康サポート</li> <li>住む人の健康意識を向上させ、自らの運動を促す</li> <li>医療/介護の包括ケアを適切に利用し健康を維持</li> <li>介護スタッフの負担軽減/サービス品質の向上</li> </ul>	(カ)
<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅生活空間における利便性の向上</li> <li>まちの課題を解決できるイノベーションの仕組みづくり</li> </ul>	(シ)
<b>(3) その他</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>郊外型団地におけるスマートシティの実現における泉パークタウンの特徴</li> </ul> <p>→第一住区から第五住区においてタウンマネジメント会社と住民、および事業者が一体となって40年以上にわたってまちづくりを続けている既成のコミュニティと、隣接する街区として2022年にまちびらきを予定している(仮称)泉パークタウン第六住区東工区開発計画におけるICT技術を生かした最先端の機能導入機会、およびそれらの連携による課題解決実証が可能。</p>	

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
三菱地所(株)東北支店	宮崎 真一	022-261-1362	shinichi_miyazaki@mec.co.jp